



なかやま せつお
中山 節夫 (文化)

昭和12年(1937年)7月29日 生
(満88歳)

【写真は本人提供】

中山氏は菊池郡合志村（現合志市）出身。映画監督。

昭和45年のデビュー作「あつい壁」では、昭和28年に起きた黒髪校事件を題材に、ハンセン病への偏見と差別を告発。全国で自主上映し注目を集めた。また昭和54年のドキュメンタリー作品「いまできること…芦北学園の子供たち」では、重度心身障がい児の施設での生活を1年間にわたり克明に記録した。

以降、学校で起きる校内暴力、非行、家出、受験、いじめ、不登校などの問題を題材に、生徒・教師・保護者・その周囲の人々の関わりを描き、教育映画監督としての地位も築いた。

平成10年の「見えない壁を越えて 声なき者たちの証言」では、ハンセン病の患者・元患者へのインタビューを通じて、近代日本におけるハンセン病の歴史を明らかにした。本作は第53回毎日映画コンクール記録文化映画賞（長編部門）を受賞した。

平成11年「原野の子ら」では、阿蘇の小さな分校の教師と生徒、その家族との人間ドラマを描いた。同作は、シカゴ・インターナショナル・チルドレン・フィルムフェスティバル'98で最高賞を受賞し、文部省選定作品にもなった。

平成19年の「新・あつい壁」では、昭和26年に起きた菊池事件を題材に、ハンセン病患者への差別の現状を浮き彫りにした。

中山氏の作品は、徹底した取材のもとにドラマを構築し、社会の矛盾や問題を提起してきた。そして、それらの問題をいかに乗り越えるかというところに、リアリティを持たせてあり、日本映画史において貴重な存在とされている。

昭和34年 日活撮影所入所(大学在学中)

昭和35年 多摩美術大学付属芸術学園映画科卒業

昭和45年 「あつい壁」公開(5月16日)

昭和56年 中山映画株式会社設立

昭和59年 「海と太陽と子供たち」公開、第25回児童福祉文化賞映画部門受賞

平成10年 「見えない壁を越えて 声なき者たちの証言」公開、第53回毎日映画コンクール記録文化映画賞長篇部門受賞

平成11年 「原野の子ら」公開、シカゴ・インターナショナル・チルドレン・フィルムフェスティバル '98 最高賞受賞